

# 令和4事業年度 業務実績報告書の概要

## I 法人の概要（P1～3）

役員、学部等構成、学生数・教職員数、基本目標、機構図等

## II 全体的な状況（P4～11）

全体的な計画の進捗状況、特色ある取組等

## III 項目別の状況（P12～49）

年度計画に記載された項目ごとの実施状況等 計 92 項目

- 1 大学の教育研究等の質の向上に関する計画（67 項目）
- 2 法人の経営に関する計画（15 項目）
- 3 自己点検・評価及び情報の提供に関する計画（3 項目）
- 4 その他業務運営に関する計画（7 項目）

## IV その他の記載事項（P50～54）

予算、収支計画、資金計画の実績等、別表（学生の状況）

## V その他法人の現況に関する事項（P55～62）

入学者、卒業・修了者、資格免許の取得、外部資金の受入状況等のデータ

# 1 全体的な状況

## (1) 大学の教育研究等の質の向上

### ① 教育・研究・学生支援

#### 教育活動・研究

- 大学院入学生の定員充足率 100%
- 地域連携演習の件数を増加
- 学内の適切な情報共有、全学的な教育の質保証推進のための教学 IR 組織の設立決定
- 3年ぶりに対面でオープンキャンパスを実施し、Youtube による Live 配信
- 研究倫理 e-ラーニングを教員向けに実施

#### 学生支援

- 県警と協力し違法薬物啓発動画を配信
- 留学生支援の充実（定期的なガイダンスと LMS を活用した情報発信）
- 早期からのキャリア形成促進のために 1、2年生にも就職ガイダンスを実施
- 後期社会人聴講生・科目等履修生の受入再開

### ② 地域貢献

- 公開講座等の様々な催しを実施
- 地域連携演習のプログラム増強と履修者の回復
- 県内外の自治体や国からの要請を受け、本学教員が 380 件の協議会等に参加・協力
- 受託研究や共同研究を通じて静岡県の施策推進に寄与

### ③ グローバル化

- 多文化・多言語教育研究センターと外国にルーツをもつ学生が協力し、定住外国人学生の自主的な学習の支援や、対話・交流活動を実施
- 地域の外国人や、ブラジル領事館に勤める卒業生を講師に招き、講演会等を開催
- アイルランガ大をはじめとする海外の教育研究機関等と、国際協働オンライン学習などの共同事業を実施

## (2) 法人の経営

- 全体で 31 件の業務が改善、成果を冊子化
- 遠州学林構想の実施体制策定、答申案の作成
- 外部資金獲得促進

## (3) 自己点検・情報提供

- 外部評価機関による審査の結果「大学評価基準を満たしている」との評価
- 大学 Web サイト、SNS 等を活用した積極的な情報発信

## (4) その他業務運営

- 教職員向けに健康管理に関する講演会を開催
- 教職員向けにハラスメント防止研修実施
- アジア初のフェアトレード大学の認定更新・取組発信

### 令和4事業年度の全体的な自己評価状況

項目	SS	S	A	B	C	計
教育・研究等	0	1(1.5%)	61(91.0%)	5(7.5%)	0	67
法人経営	0	2(13.3%)	13(86.7%)	0	0	15
自己点検・評価情報の提供	0	0	3(100%)	0	0	3
その他	0	0	6(85.7%)	1(14.3%)	0	7
令和4年度自己評価計	0	3(3.3%)	83(90.2%)	6(6.5%)	0	92
※令和3年度評価結果計	A		B	C	D	計
	7(4.9%)		133(93.7%)	2(1.4%)	0	142

※令和4年度（第3期）から下記のとおり評価基準が変更となっている。

○自己評価基準

令和4年度から（第3期）	令和3年度（第2期）
SS 計画を大幅に上回って実施している	A 計画を上回って実施している
S 計画を上回って実施している	B 計画を十分に実施している
A 計画を順調に実施している	C 計画を十分には実施していない
B 計画を十分には実施していない	D 計画を大幅に下回っている
C 業務の大幅な見直し等が必要	

## 2 項目別の状況

### (1) 大学の教育研究等の質の向上に関する取組

(業務実績報告書 P12~P35)

#### 特筆すべき取組及び成果等

#### ① 教育活動

- ・各学部において3ポリシーの検証をしながら、カリキュラム改定案（令和7年度から開始）の作成を進めた。【No.1】
- ・大学院の2研究科の定員20名に対し、志願者は33名を集め、20名が入学。（充足率100%）【No.4】
- ・対面でのオープンキャンパスを3年ぶりに開催し、YoutubeによるLive配信も行った。11月に開催された大学祭（碧風祭）でも入試相談会を案内し、2日間で約100組に対応。【No.5】
- ・地域連携演習の件数を増やした。（R3：23件→R4：28件）【No.9】
- ・教育研究審議会にて、入試室、教務・学生室、キャリア支援室及び関連委員会の間で適切に情報共有し、教育の質保障を全学的に推進する組織として教学IR部会の設置が承認された。【No.25 S】
- ・語学力向上と留学促進のために「外部語学検定試験検定料補助」を実施。また、TOEIC対策講座・HSK4級特別講座を実施し検定を支援。試験結果からも学生の英語レベル、中国語レベルの向上が確認できた。【No.27】

#### ② 学生支援

- ・静岡県と静岡県警と協同で違法薬物について啓発動画を制作し、全学生に配信。新入生に生活安全の意識啓発資料を配布、ガイダンスにて注意喚起。【No.33】
- ・定期的な留学生ガイダンスの実施とLMS（学習管理システム）を活用した情報発信により留学生への支援を充実させた。【No.35】
- ・大学祭（碧風祭）を3年ぶりに対面で実現【No.36】
- ・就職ガイダンスを1年生向けに1回、2年生向けに2回実施し、早期からのキャリア形成を促進した。【No.38】
- ・後期に社会人聴講生・科目等履修生の受入れを再開【No.43】

#### ③ 研究

- ・外部資金の公募情報や採択実績等の学内への周知により、教員の外部資金獲得に対する意識向上をはかった。（科学研究費補助金について教員の申請率及び獲得金額が増加）【No.48】
- ・研究における倫理教育を徹底するため、新任教員及び更新年度に該当する教員に研究倫理eラーニングの受講を促し、年度末までに対象となる全教員が受講した。【No.51】
- ・公的研究費等の不正防止計画や不正使用防止に関する規程等をまとめた冊子を教職員に配布【No.52】

#### ④ 地域貢献

- ・公開講座等の様々な催しを実施。参加者は目標値の3,892人を超えた。【No.54】
- ・コロナ禍により縮小された「地域連携演習」のプログラムの増強と履修者の回復を図った結果、地域連携演習等取組者数は目標値195人に対し280人であった。【No.55】
- ・アジア初のフェアトレード大学として、認定更新にあたり、本学教職員や地域社会に対して強く情報発信するため、記念セレモニーを実施。そのほか浜松市が主催するシンポジウム等で本学のフェアトレードの取組を紹介。PR動画も制作。【No.56】【No.92】
- ・県内外自治体、各種団体の審議会、委員会等に本学教員が参画し、政策形成や地域の人材育成に貢献。(延べ380件)【No.58】
- ・静岡県からの依頼を受けて、各種審議会や委員会に本学教員が参加・協力し、県の政策形成に貢献。静岡県の各種施策推進に対して、受託事業、共同研究等の形で協力。(審議会等参加54件 受託事業7件 共同研究4件)【No.59】

#### ⑤ グローバル化

- ・多文化・多言語教育研究センターと外国にルーツをもつ学生で構成するSIB (Students with International Background) が協力して、定住外国人学生の自主的な学習を支援。またSIBは映画上映会を開催などの、対話や交流活動を実施【No.63】  
【No.63】
- ・「遠州学林構想(中間答申)」に示された滞在対話型交流拠点の形成を視野に入れ、地域の外国人や、ブラジル領事館に勤める卒業生を講師に招き、講演会等を開催【No.64】
- ・海外の教育研究機関等との共同事業として、アイルランガ大学との国際協働オンライン学習、ワルシャワ美術アカデミーとの合同作品展及びCOIL(オンライン国際共同学習システム)、ブラジル青少年派遣事業(ジャパン・ハウスサンパウロでの研修等)、イズミル経済大学との共同課題取組の4件を実施。【No.67】

#### 大学の教育研究等の質の向上に関する取組 項目別の評価状況

項目	SS	S	A	B	C	計
教育活動 学生支援	0	1	39	3	0	43
研究	0	0	8	1	0	9
地域貢献	0	0	9	1	0	10
グローバル化	0	0	5	0	0	5
令和4年度 自己評価 計	0	1(1.5%)	61(91.0%)	5(7.5%)	0	67
※令和3年度 評価結果 計	A		B	C	D	計
	7(7.3%)		88(91.7%)	1(1.0%)	0	96

## (2) 法人の経営に関する取組

(業務実績報告書 P36~P42)

### 特筆すべき取組及び成果等

#### ① 業務運営の改善

- ・遠州学林構想専門部会での検討及び教職員に実施したアンケートの意見をもとに、遠州学林構想の具体的な実施体制を策定し、答申案としてまとめた。【No.70】
- ・育児のための入試業務免除等、制度を周知し利用を促進した。育児休業以外の育児に関する諸制度の利用者は12人であった。(目標値：第3期累計30人以上)【No.73 S】
- ・各室で業務改善を図った結果31件の業務が改善された。また、成果等を冊子にまとめた。【No.75 S】
- ・教育研究審議会にて、入試室、教務・学生室、キャリア支援室及び関連委員会の間で適切に情報共有し、教育の質保障を全学的に推進する組織として教学IR部会の設置が承認された。【No.75 S】

#### ② 財務内容の改善

- ・科学研究費補助金等の外部資金獲得促進のため、教員に対し外部講師による個別相談、研究計画調書の作成ポイントを解説した動画の提供を実施するなど、支援を充実させた。獲得金額が目標を上回った。【No.78】【No.48】
- ・大学Webサイトや広報誌への掲載の他、同窓会、後援会等を通じて、寄付の依頼を行った結果2,776千円の収入があった。【No.79】

#### ③ 施設・設備の整備・活用等

- ・屋外壁面修繕を実施し、完了した。非常用発電機オーバーホール、個別空調更新について、事業を開始。【No.81】
- ・遠州学林構想専門部会での検討及び教職員に実施したアンケートの意見をもとに、滞在対話型交流拠点等の具体案を策定し、答申案としてまとめた。【No.82】

### 法人の経営に関する取組 項目別の評価状況

項目	SS	S	A	B	C	計
業務運営	0	2	8	0	0	10
財務内容	0	0	3	0	0	3
施設・設備	0	0	2	0	0	2
令和4年度 自己評価 計	0	2(13.3%)	13(86.7%)	0	0	15
※令和3年度 評価結果 計	A		B	C	D	計
	0		24(100%)	0	0	24

### (3) 自己点検・評価及び情報の提供に関する取組

(業務実績報告書 P43~P45)

#### 特筆すべき取組及び成果等

##### ① 評価の活用

- ・ 6年に1度の外部評価機関による審査（認証評価）を受審し、「大学評価基準を満たしている」との評価を受けた。評価結果を教育研究及び業務運営の改善計画に反映。【No.83】

##### ② 情報公開等の充実

- ・ 大学Webサイト、SNS等を活用して法人運営、教育研究活動、学生の活動等に関する大学情報を適時に掲載・更新するなど、大学の最新情報を積極的に公開。【No.84】
- ・ 大学の公式映像のリニューアルに向け、広報委員会のもと教職員で構成するリニューアルワーキンググループで仕様等を決定し、プロポーザル方式で制作業者を選定し制作を開始。【No.85】

#### 自己点検・評価及び情報の提供に関する取組 項目別の評価状況

項目	SS	S	A	B	C	計
評価の活用	0	0	1	0	0	1
情報公開等	0	0	2	0	0	2
令和4年度 自己評価 計	0	0	3(100%)	0	0	3
※令和3年度 評価結果 計	A		B	C	D	計
	0		6(100%)	0	0	6

#### (4) その他の業務運営に関する取組

(業務実績報告書 P46~P49)

#### 特筆すべき取組及び成果等

##### ① 安全管理

- ・教職員向けの健康管理に関する講演会をオンラインにより開催し、健康管理意識の醸成に努めた。【No.86】
- ・安否確認フォームの運用テストを含む防災訓練を実施。【No.88】

##### ② 社会的責任

- ・教職員を対象にハラスメント防止研修を行った。(受講率 100%)【No.91 B】
- ・発生したアカデミック・ハラスメント事案 1 件について、ハラスメント調査委員会を立ち上げ、迅速な修学環境の改善措置を行い、厳正な処分方針を決定した。【No.91 B】
- ・アジア初のフェアトレード大学として、認定更新にあたり、本学教職員や地域社会に対して強く情報発信するため、記念セレモニーを実施。そのほか浜松市が主催するシンポジウム等で本学のフェアトレードの取組を紹介。PR動画も制作。【No.56】【No.92】

#### その他業務運営に関する取組 項目別の評価状況

項目	SS	S	A	B	C	計
安全管理	0	0	5	0	0	5
社会的責任	0	0	1	1	0	2
令和4年度 自己評価 計	0	0	6 (85.7%)	1 (14.3%)	0	7
※令和3年度 評価結果 計	A		B	C	D	計
	0		15 (93.7%)	1 (6.3%)	0	16